■「ちくま評論入門」解説――読解問題への過程

2　大澤真幸（おおさわまさち）「未来の他者と連帯する」

●参考　大澤真幸『社会は絶えず夢を見ている』【304/O8/1】（北野高校図書館）

■目標

●問いに対する答えを意識する。

■追跡

①　三・一一の原発事故が開示した最大の哲学的な難問は、〈未来の他者〉〈将来世代〉といかにして連帯するか、という問いである。原発を稼働するということは、何十年後、何百年後、いや場合によっては何万年後の他者の利害や生存に、つまりまだ生まれていない――ひょっとすると出現すらしないかもしれない――将来の他者の利害や生存に決定的な影響を与えることを意味している。

②　原発に関する意志決定に、どのようにして、そのような遥かな未来の他者への配慮を組み込み、結果として、その未来の他者との連帯を実現することができるのか。それは著しく困難なことに思える。

◆**問いを確認**する。未来世代とどのように連帯するか。連帯？　関係を結ぶことか？　原発事故や核廃棄物によって、ここを住めない場所にしてしまう、というなら、それは、今の世代が加害者であり、未来の世代は被害者という関係だ。そうならないための関係の結び方――をいっているのか。事故や廃棄物の問題は、すでに、現に起きているし、未来に影響があることも明らかなのだから、未来に被害をもたらさないためには、原発をやめればいい。答えはかんたんだ。――なら、なぜ、筆者は「困難な問いだ」というのか？

③　同じ問題は、実は、原発に関してのみ付きまとっているわけではない。環境問題や年金問題、財政問題などすべての政治的・社会的課題には、同じ問いがともなっている。この主題に関して、希望的なことと悲観的なこととを一つずつ述べておこう。

同じ問い＝未来世代とどのように連帯するか。それぞれの問題の〈被害〉をイメージしておこう。◆**具体例で理解**。環境が破壊されて、住めない・食糧が獲れない・生態系が壊れる。退職後に支払われるべき年金が支払われない。国や自治体の財政が破綻して、公共サービスが停止する…。――悪夢だ。

④　希望的なことと[は]、哲学者カントが「不可解な謎」と述べている事実である。人は、しばしば、その成果として得られる幸福を享受できるのがずっと後世の世代であって、自分自身ではないことがわかっているような骨の折れる仕事にも、営々と従事する。これは、ふしぎなことではないか、とカントは言う。

⑤　ふしぎかもしれないが、これは事実である。われわれのほとんどは、自分が恩恵を受けることができないとわかっていることであっても「あとは野となれ山となれ」といったかたちでおざなりにしてしまうのではなく、それなりにがんばる。ここには、未来の他者への配慮がすでに含まれている。これは希望である。

「これは希望」＝恩恵を受けるのは自分ではなく、未来世代だとわかっていることであっても、それなりにがんばるという事実は、〈未来の他者への配慮〉が私たちの中に予めインプットされていることを示している。→それは〈希望〉だ。

⑥　悲観的な事実とは[は]、心理学者が、時間選好についての「双曲（誇張的）割引」と呼んでいる現象である。人は、一般に、現在の満足を将来の満足よりも優先する。一年後に一〇〇万円をもらうより、今一〇〇万円をもらえるほうがうれしい。一年後に得られる金額が二〇〇万円であれば、今の一〇〇万円をがまんするが、一一〇万円程度であれば、現在の一〇〇万円を優先させるかもしれない。つまり、将来の価値は割り引かれるのであり、これが利息を取ることの根拠になっている。

⑦　双曲割引とは、この割引率が、時間を通じて均等にはなっていない、ということである。近い未来では、割引の程度が極端に大きく、誇張されるのである。簡単に言えば、今日と明日では大違いだが、四日後と五日後は同じ1日の幅でも大同小異と感じられるということだ。

⑧　双曲割引は何を意味しているのか。現在と未来との間には圧倒的な質的差異があるということである。今日と明日の間には、「現在／未来」の深淵があるが、四日後と五日後はともに同じ「未来」に属しているので、相対的な差異しかない。もっとはっきりと言ってしまおう。「未来の自分」は、〈（現在の）私〉にとって、ほとんど〈他者〉に等しいのだ。

⑨　双曲割引は、〈私〉が、「未来の自分」という〈他者〉と連帯すること、「彼」のために自分を犠牲にすることでさえも、そうとうに困難であることを示している。ダイエットしなくてはならないのに、目の前のケーキの誘惑に負けてしまうとき、われわれは、「未来の自分」を裏切り、「彼」との約束を破っているのである。とすれば、まして、数万年後の〈他者〉と連帯などできるだろうか。

◆**かんたんに捉えておこう。自分の話し言葉で**（これ、じつはものすごく大切！）。「今が大事。未来のことなんて関係ない！（たとえ自分のことでも）」。今遊んじゃったら、あ

とで宿題に泣くよ。カンケーなーい（と思いたい）。そういう心理もまた、私たちには予めインプットされている。これは、悲観的な事実。

⑩　しかし、である。この悲観的な事実を、最初に述べた希望的な事実とセットにして見直した場合には、ここから1もうひとつの希望を紡ぎ出すこともできる。〈私〉と〈他者〉とを分かつ真に決定的な断絶は、今述べたように、現在と未来の間にある。ということは、「一〇年後の自分」と「一〇〇年後の子孫」は、今の〈私〉にとっては、同じように〈他者〉であって、その差異は相対的だということになる。

ていねいに追跡しよう。今の〈私〉にとっては、「一〇年後の自分」なんて、〈他者〉。同時に、「一〇〇年後の子孫」も、もちろんあずかり知らぬ〈他者〉。程度は違うけど、どっちも〈他者〉じゃん。と、いっている。

⑪　確かに、「未来の自分」のことを配慮し、「未来の自分」と「連帯」することは簡単ではないが、2われわれは、それを不可能なこととは思っていない。長期的な視野に立ち、はるかに先のことを考慮して決定したり、行動したりすることは、むしろ普通のことである。カントも、後続世代の幸福のために労苦を惜しまないことを「不可解な謎」と見たが、「自分自身の将来」のために努力することは、不可解でも何でもないあたりまえのことと見なしていた。

「長期的な視野に立ち、はるかに先のことを考慮して決定したり、行動したりする」って、学校でよく言われるよね。「将来のことを考えて、進路選択しなさい」とか。考えるのは、確かに、めんどうだし、よくわかんないけど、自分が将来困らないように、幸せでいられるように、と考えて行動することは、ふつうのことだ。

⑫　しかし、繰り返せば、「自分自身の将来」は、すでに、〈私〉にとって〈他者〉の領分に入っている。「未来の自分」という〈他者〉と連帯できるのであれば、ずっと後の世代、数百年後、数万年後の〈他者〉との間でも、連帯できるはずだ。両者の間には、「今日と明日」ほどの差異もないのだから。

①未来の自分のためになら、今、努力できる。②未来の自分は、今の自分にとって他者である。③ならば、今の自分は、（未来の）他者のためにも努力できる（はず）。

②の「未来の自分＝他者＝未来の他者」という等式が、ポイント。なんだか、ダマされたような気がしなくもないが、理屈はこういう数学チックなものだ。

■読解問題

1「もうひとつの希望」とはどのようなことか。八〇字以内で説明しなさい。

今の図式をつないで文章にすればいい。きちんと★図式をメモしてから組み立てる。

（解答例）「未来の自分のためになら、今、努力できるのであれば、未来の自分は、今の自分にとって他者同然なのだから、遠い未来の他者のためにも努力できるはずだという希望。」（76字）

2「われわれは、それを不可能なこととは思っていない」とはどのようなことか。八〇字以内で説明しなさい。

直後に該当する内容がある。「長期的な視野に立ち、はるかに先のことを考慮して決定したり、行動したりすることは、むしろ普通のこと」、「自分自身の将来のために努力することは、不可解でも何でもないあたりまえのこと」。これらをドッキングして組み立てる。

このとき、傍線部を★**切り身**にして、それぞれいいかえると、漏れがなく、形も崩れない。★**切り身**。覚えておこう。

「われわれは、／それを／不可能なこととは思っていない、ということ。」

「私たち人間は／**それを**／可能だと考えている、ということ。」

●それ＝自分自身の将来のために、長期的な視野に立ち、はるかに先のことを考慮して決定したり、努力したりすること。

（解答例）人間は、自分自身の将来のために、長期的な視野から未来のことを考慮して現在のことを決定したり、努力したりするのは当然だし、可能だ、と考えている、ということ。（77字）

■発展問題

本文の議論を参考にして、自分（たち）の利害と直接関係がない（と感じられる）未来の〈他者〉のことを考慮すべき根拠を考え、書いてみなさい。

考えるヒント。例えば、具体的に、核廃棄物や温暖化や汚染など、放置すれば確実に未来世代そのものの生存に影響する事態が現に存在することをふまえ、将来、そのせいで人類が現実に絶滅してしまう場面を想定してみなさい。もう一つ、例えば、ある理由で、自分は確実に三〇歳まで生きることができないと想定してみたとき、自分は〈現在〉についてどのように考えるだろうか、想像してみなさい。

●重要語「他者」＝よく理解できない存在　と置き換えて読もう。